

富士山の東北東斜面の地面の陥没と噴気について

気象庁は、富士山の東北東斜面に 4 ヶ所の地面の陥没を確認した。また、この内 1 ヶ所の地面の陥没内に 2 ヶ所、陥没の周辺に 1 ヶ所の計 3 ヶ所に穴があり、そこでごく弱い噴気を確認した。なお、現時点では、地震計や傾斜計等のその他の観測データには異常な変化はなく、これら地面の陥没や噴気活動は噴火活動と直接関連するものとは考えていない。

経緯

9 月 18 日、山梨県に「富士山北東斜面で噴気が出ている」との発見者通報があった。

9 月 22 日以降、気象庁は山梨県からの情報を受け職員を現地に派遣し、地面の陥没や噴気の状態を調査・解析した。

観測結果

1. 富士山の東北東斜面、小富士の北東約 2km の標高 1530m 付近で、東西約 15m、南北約 10m の楕円形をした深さ 20～30cm の地面の陥没を確認した。その場所は、工事中的の林道（富士山中線）の脇であった。陥没壁に沿った北側内側の数ヶ所に穴があり、内 2 ヶ所でごく弱い噴気を確認された。噴気温度は最高で約 40℃、いずれの噴気の高さも地表上 1m 以下であった。なお、噴気の出ていない穴や周辺の地温は約 15℃であった。
2. さらに同地点から南東に約 400m 離れた地域にも、直径約 5 m のほぼ円形で深さ 30～40cm の地面の陥没を 3 ヶ所で確認した。その場所は、工事中的の林道（富士山中線）の脇であった。また、その周辺でも、ごく弱い噴気を出す穴が 1 ヶ所観測され、噴気温度は約 26℃であった。なお、周辺の地温は約 15℃であった。
3. ガス検知管によるガス分析を行ったところ、いずれの場所でも硫化水素等の顕著な火山性のガスは検出されなかった。
4. また、富士山周辺に設置している地震計や傾斜計等には、特段の異常を示すデータは観測されていない。

なお、気象庁では、当分の間、噴気の出ている地点の地温等の観測を行い、これらの噴気活動の変化の有無を確認することとしている。

参考資料

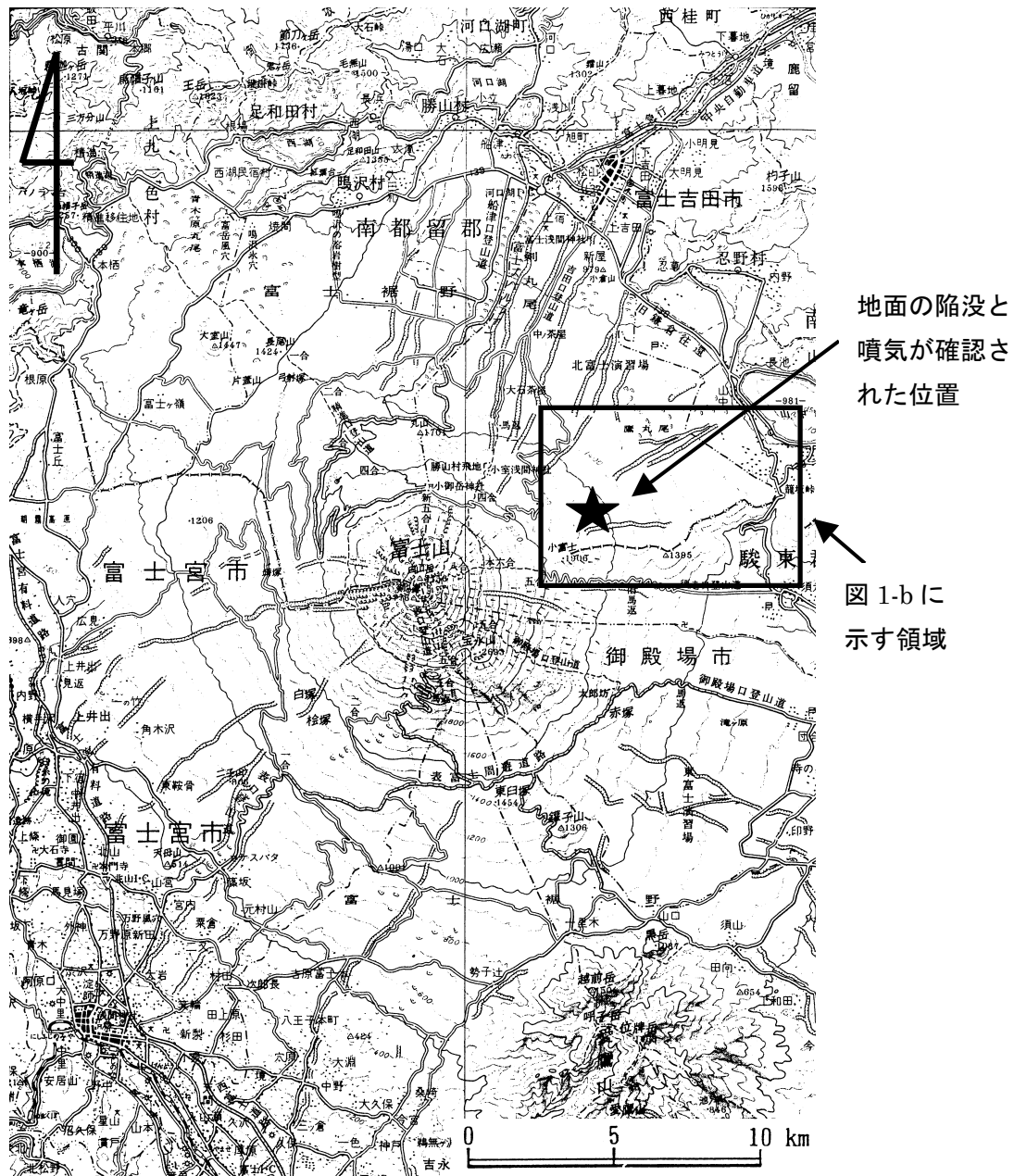


図 1-a 地面の陥没と噴気が確認された位置。富士山の東北東斜面、小富士の北東 2km 付近。国土地理院 1/200,000 地形図「甲府」及び「静岡」による。

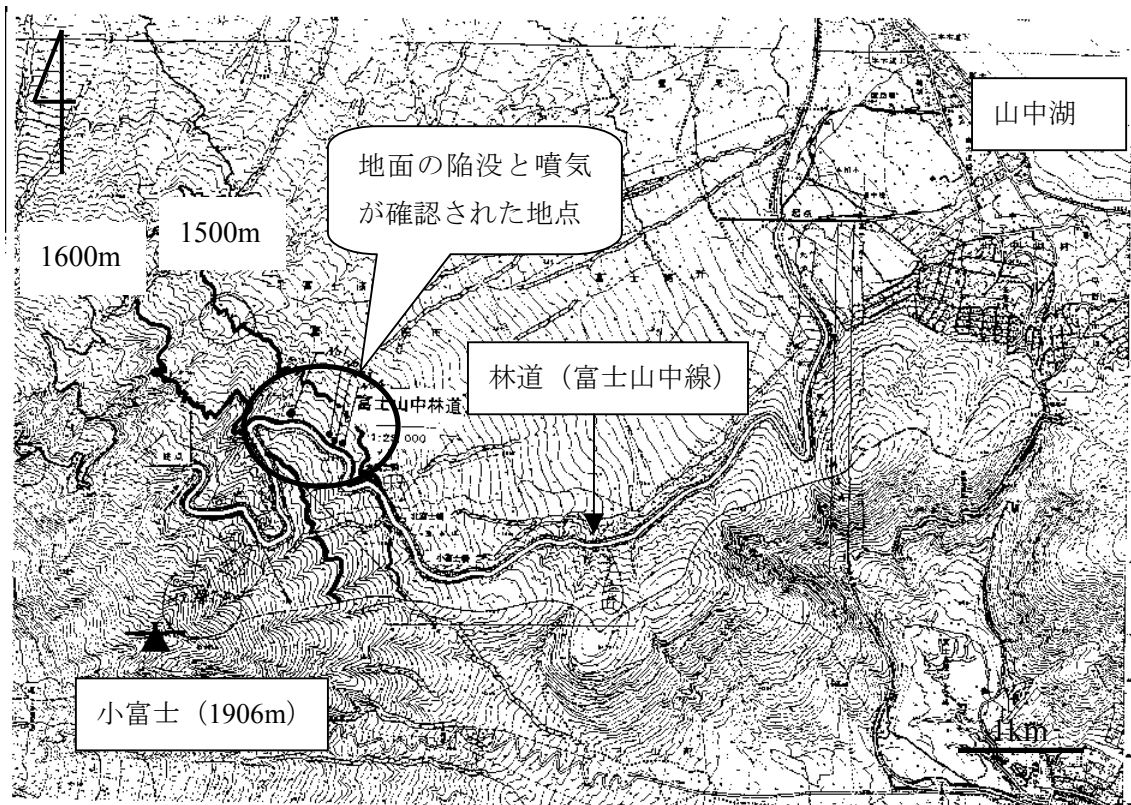


図 1-b 地面の陥没と噴気が確認された地点の周辺図。富士山の東北東斜面、小富士の北東 2km 付近。陥没等は林道に沿って分布している。国土地理院 1/25,000 地形図「須走」に山梨県消防防災課が加筆した資料による。

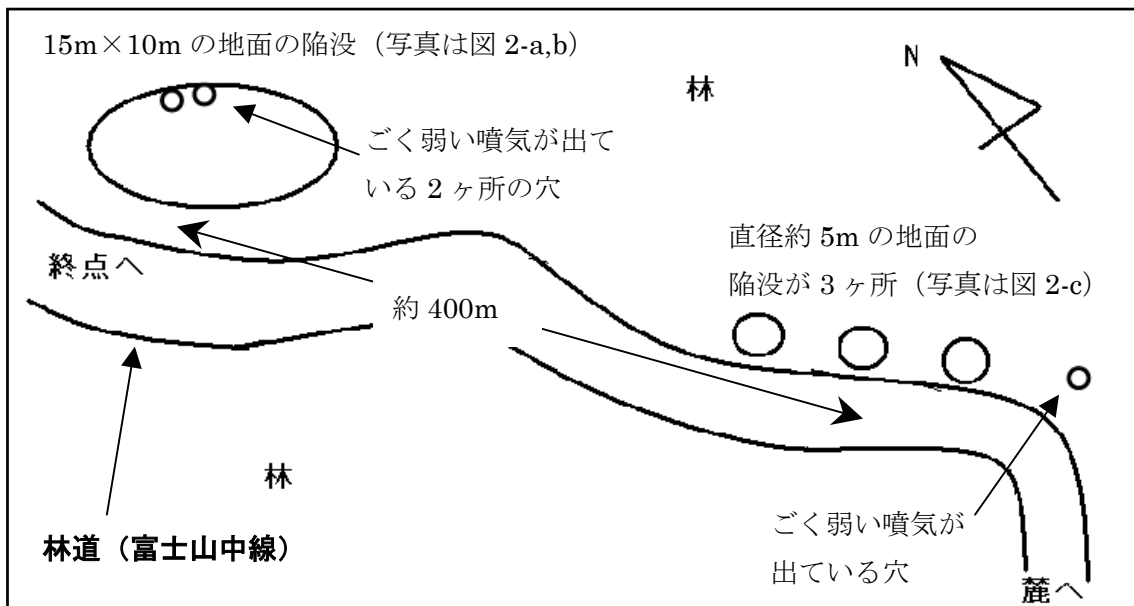


図 1-c 地面の陥没と噴気が確認された穴の相互の位置関係。陥没や穴の大きさ、林道の幅などは実際よりも大きく描かれている。



図 2-a 確認された地面の陥没の中で最も大きいもの。15m×10m の楕円形。陥没の中の北側（林道から見て奥側）の端にある 2ヶ所の穴から、ごく弱い噴気が上がっていた。また、噴気が上がっている穴の付近には、触れると暖かい領域（地熱地帯）がみられた。



図 2-b 15m×10m の陥没内で噴気を上げている 2ヶ所の穴の拡大写真。大きい方（写真左）は 20cm×50cm で噴気の温度は 34℃、小さい方（写真右）は直径 5cm の円形で噴気の温度は 40℃であった。



図 2-c 3 つ並んだ地面の陥没のうち最も北側のもの。直径約 5m の円形をしている。
噴気が出ている穴はないが、地面がわずかに周囲より暖かい部分（温度 18～23℃、
その他の地面は約 12℃）があった。